

第15回スクールリーダー・フォーラム

授業研究を組織する 協働・持続・創発

大学・学校・教育委員会のコラボレーション

大阪教育大学・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会合同プロジェクト 組織協力 福井大学教職大学院

日時

2015 (平成27) 年
11月21日(土)

場所

大阪教育大学
天王寺キャンパス

形態

ラウンドテーブル型
(語りと傾聴による学び合い)

プログラム (敬称略)

第一部 ▶▶▶ 10:30 - 12:40

場所 ミレニアムホール

司会 田中 英治 (大阪市教育委員会)

10:30

開会あいさつ

越桐 國雄 (大阪教育大学理事・副学長)
和田 良彦 (大阪府教育委員会教育監)
大継 草嘉 (大阪市教育委員会教育次長)

10:45

基調講演

授業研究の難題を切り拓く

森田 英嗣
(大阪教育大学連合教職大学院研究科主任・教授)

11:45

休憩

11:55

学校現場からの発信

教材に出会う喜び・楽しい授業づくりをめざして
一学び続ける教員をサポートする—
中道 元子 (大阪市北田辺小学校校長)

授業力向上に向けてのRPDCA

—授業規律の確立から魅力ある授業づくりへ—
稲葉 剛 (大阪府立枚岡樟風高等学校校長)

12:25

ピアノとチェロの共演

大木 愛一 (大阪教育大学教授)
小谷 照子 (大阪教育大学卒業生)

12:40

昼食・休憩

教職大学院生交流会 (大阪 福井 鳴門 岡山) 213教室

第二部 ▶▶▶ 13:40 - 17:30

場所 214・215教室

司会 川口 賢志 (大阪府教育委員会)

説明 寶田 康彦、川口 賢志

13:40

ラウンドテーブル

授業研究会を企画運営する

—「語り・聴く」学習コミュニティー

大阪府教職員、大阪市教職員、大阪教育大学大学院生、
福井大学教職大学院生、鳴門教育大学教職大学院生

他 32名

各グループ6人編成で、報告者2名(報告40分+話し合い30分)が授業研究会の企画運営について物語り、参加者が傾聴し、協同的に実践を省察します。時間配分(180分):司会者発題・自己紹介20、報告A70、休憩10、報告B70、まとめ10

16:40

休憩・移動

16:55

総括講演

校内授業研究を再考する

—現在から未来へ—

木村 優 (福井大学教職大学院准教授)

17:25

閉会あいさつ

大脇 康弘 (大阪教育大学)

17:30

終了

※交流会 18:00より天王寺駅近くで開催

大会概要

日時 2015(平成27)年11月21日(土) 10:30~17:30 (開場は10:00)

場所 大阪教育大学 天王寺キャンパス
ミレニアムホール、213・214・215教室 他対象者 スクールリーダー:大阪府内の学校・教育委員会に勤務する教職員、
行政職員、および大学研究者

定員 84名(インターネット事前申込制)

参加費 無 料

アクセス 大阪教育大学 天王寺キャンパス
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88
TEL(06)6775-6611
JR天王寺駅・地下鉄天王寺駅・近鉄大阪阿部野橋駅下車、約650m
JR寺田町駅下車、約400m

申込方法

1. インターネット申込

大阪教育大学HPにて10月下旬にご案内します。
そのHP上から次の事項を記入して、申し込みください。1. 名前、勤務校・機関、職位、電話番号、E-mailアドレス
2. 自己紹介文(200字程度) 3. その他

2. 申込締切日 2015(平成27)年11月12日(木) 必着

3. 参加の可否

申込受付後10日以内にE-mailにて参加の可否をご連絡します。定員に達し次第、締め切らせていただきます。参加者はこの冊子で事前学習してください。

4. 問い合わせ先

大阪教育大学 学務部天王寺地区総務課 総務係
E-mail: ntens@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

スクールリーダー・フォーラム事務局

■大阪教育大学スクールリーダー・プロジェクト(SLP) 大脇康弘 深野康久 林龍平 水野治久
■大阪府教育委員会 教育振興室高等学校課 学校経営支援グループ ■大阪市教育委員会 総務部教育政策課 企画グループ

授業研究を組織する

— 協働・持続・創発 —

■ 第15回スクールリーダー・フォーラムの趣旨

スクールリーダー・フォーラム (SLF) は、スクールリーダーの「学びの場」を創り出す取り組みです。このフォーラムは大阪教育大学と大阪府教育委員会および大阪市教育委員会の合同プロジェクトとして開催します。加えて、福井大学教職大学院の組織協力、鳴門教育大学教職大学院の協力を得ています。

第15回フォーラムは、「授業研究を組織する—協働・持続・創発」がテーマです。学校では授業研究会（授業検討会、授業研究協議会など）を組織し、授業の改善と指導力の向上に取り組んでいます。この校内授業研究は教師の協働性に支えられて持続的に行われ、そして創発性を持つことを期待されています。実際、着実に取り組まれ確かな成果を上げている一方で、慣習化し形式化していることも少なくありません。また、校種によっては、取り組まれつつありますが教職員の関心が高まらない場合もみられます。スクールリーダーがこころを砕き、創意工夫を重ねてきた校内授業研究について、実践事例を交流するとともに理論的検討を行います。

基調講演では、授業研究をめぐる難題を学校関係者が切り拓いていく筋道が問題提起されます。続いて学校現場の実践が大阪府と大阪市から事例報告されます。

ラウンドテーブルでは校内授業研究に関する多様な実践が報告され、語り聴く活動に取り組みます。32本の報告には、次の要件が期待されます。①学校としての組織的取り組み、または学年・教科・分掌単位の取り組み、②報告者の役割と活動を明示、③コンセプトとストーリーが基軸、④実践のプロセスを1年以上扱い、葛藤や変容を含む、⑤実践校の基礎データを明記。

総括講演では校内授業研究を再考し今後を展望します。以上を通して、このフォーラムで学校づくりの現状と未来を考えていきたいと思います。

フォーラムでいうスクールリーダーは「学校づくりの中核を担う教職員」で、校長、教頭、主幹教諭（首席）、指導教諭、主要な主任、事務長などを含みます。

スクールリーダー・フォーラムでは、スクールリーダー、指導主事、大学教員が一堂に会して、実践を交流していきます。立場・役割が異なる参加者一人ひとりが主役となり、それぞれの役割を担っていただきます。充実したフォーラムになるよう取り組んでいきましょう。

■ ラウンドテーブルの報告者・関係者

ラウンドテーブルの報告者

大阪府教職員: 繁内一之（茨木高校 教頭） 田中昌一（大阪府教育センター 附属高校 首席） 西川 学（布施高校（定） 首席） 角野 進（勝山高校 教諭） 虎野正幸（泉南支援学校 首席） 馬淵哲哉（岸和田支援学校 教諭）

大阪市教職員: 稲井雅大（中大江小学校 教諭） 津田直子（九条南小学校 教諭） 松田紘司（菅原小学校 教諭） 田中和子（墨江丘中学校 教諭） 田窪真樹（大正中央中学校 教諭） 川辺智久（大阪市教育センター 主任指導主事）

大阪教育大学連合教職大学院・夜間大学院（在学生、修了生）他:

中山大嘉俊・川村幸久（大阪市立堀江小学校 校長・教諭） 木田哲生（堺市立三原台中学校 教諭） 尾崎真弓（伊丹市総合教育センター 主幹） 西川 潔（奈良・御所市葛小中学校 校長） 浜崎仁子（和泉市立光明台南小学校 校長） 高元伊智郎（茨木市立養生中学校 校長） 文田英之（大阪市立本庄中学校 校長） 真島克宣（茨木市立平田中学校 教諭） 岡田千鶴（大阪医療看護専門学校 副校長） 磯島秀樹（プール学院大学 教授） 深川八郎（和大学 教授）

福井大学教職大学院: 砂原 亘（高浜町立青郷小学校 教諭） 山口有一（美浜町立美浜中学校 教諭） 観 寿子（福井県幼児教育支援センター 指導主事） 岸野麻衣（福井大学 准教授）

鳴門教育大学教職大学院: 中西宏嘉（静岡・伊東市立宇佐見小学校 教諭） 山口誠博（高松市立浅野小学校 教諭） 池上真美（高知県立高知南高校 教諭）

岡山大学教職大学院: 植月純子（美咲町立美咲中央小学校 教諭）

京都教育大学連合教職大学院（修了生）: 森脇正博（京都教育大学附属京都小中学校 教諭）

ラウンドテーブル関係者

大阪府教育委員会: 西田恵二、實田康彦、伊藤範子、片山造、佐藤誠治、川口賢志

大阪市教育委員会・教育センター: 川本祥生、三枝由佳里、田中英治、茨木久治、仲田弘伺、川辺智久

大阪教育大学大学院: 大脇康弘、林 龍平、深野康久、水野治久、瀧野揚三、米津俊司、森均、牧 郁子

福井大学教職大学院: 木村 優、岸野麻衣、小林真由美

鳴門教育大学教職大学院: 阿形恒秀、大林正史

岡山大学教職大学院: 金川舞貴子

京都教育大学連合教職大学院: 水本徳明、榊原禎宏

フォーラム講演者
Profile

大阪教育大学連合教職大学院研究科主任・教授
森田 英嗣 (Morita, Eiji)

教育学専攻。工学的手法の導入による授業改革、メディア教育の授業開発、授業スタイルとそこでの学習の国際比較、ドイツの学力向上政策の研究などに従事。日本NIE学会常任理事。最近の著書に「ドイツ〜格差は正に向けた連邦・州・学校における多様な取り組み〜」志水・山田編『学力格差は正策の国際比較』（2015、岩波書店）、論文に「小学生へのニュース到達とNIE実践校の効果」（2015、日本NIE学会誌）などがある。

フォーラム講演者
Profile

福井大学教職大学院准教授
木村 優 (Kimura, Yuu)

東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士（教育学）。専門は教育方法学、教育心理学。おもな著書に『情動的実践としての教師の専門性』（風間書房、2015年）、訳書に『知識社会の学校と教師』（金子書房、2015年）など。学校と教師との協働に基づく実践研究から、教師の専門性における情動の布置、授業研究における視点と語りの様式などを探究している。

ピアノとチェロの共演

「いのちと向き合う音の世界」

曲目 白鳥、鳥の歌、荒城の月 ほか

チェロ：大木 愛一（大阪教育大学教授）
ピアノ：小谷 照子（大阪教育大学教養学科
音楽コース卒業、第二部在学生）

ラウンドテーブルの取組指針

—「授業研究会の企画運営」を語り聴く—

スクールリーダー・フォーラム事務局

■ ラウンドテーブルとは

ラウンドテーブルは、6人程度の少人数グループに分かれて、語りと傾聴によって学び合う学習方法です。円形になってお互いに顔が見える関係で、報告者は学校づくりの実践についてじっくり物語り(narrate)、参加者は報告者の実践の展開を文脈に沿って聴き取り(listen)共有していく中で、協同して実践を省察していきます。今回のテーマは、「授業研究会を企画運営する」(校内授業研究の実践)です。

報告者は学校づくりの実践を記録・資料を手がかりに時間をかけて語ります。実践の期間は1校で1年から数年にわたります。参加者は、報告者が事例やエピソードを交えて語る展開に耳を傾け、活動の場面を共有し、報告者に寄り添う形で質問し、実践を深く理解しようとします。ファシリテーター(司会)は、この学び合う関係が形成されるよう適切な支援と働きかけを行います。こうして、報告者と参加者が共に実践を省察し探究をすすめていきます。

このラウンドテーブルには次の四つの特長があります。

第一に、報告者はじっくり時間をかけて自分の実践を物語る貴重な機会を得られます。

第二に、参加者は少人数のグループで報告者の実践の展開を確かに受け止めていきます。時には、参加者が報告者に率直な問いかけを行い、問題を深める契機を作ることもあります。

第三に、多様な属性・キャリアをもつ人々が集まって聴き合うことから、報告者は内容のテーマ・構成について個別性と一般性を意識して、伝える工夫をします。スクールリーダーに関わる実践は個別具体的で特定の社会的文脈の中で行われていますが、それを異なる属性・キャリアを持つ人にわかるように伝えていくことが必要です。その作業を通して、自分たちの実践をパブリックな仕事として位置づけ直すことになります。

第四に、異なる属性・キャリアの人々に物語り、話し合う体験を通して、報告者には気づきや発見、新たな問いが生まれ、それが自分の実践を再構成する契機になります。

こうしてラウンドテーブル参加者は、「語り・聴く関係」を基礎とした「学習コミュニティ」を形成していきます。それは、報告者の実践—省察—再構成の学習サイクルを支える土台となります。

1 全体の概要

①グループメンバー 6名(14～16グループを予定)

- ・異なる校種・職位などを組み合わせてグループ構成する。
- ・報告者スクールリーダー2、大阪教育大学・福井大学・鳴門教育大学1、大阪府教育委員会・大阪市教育委員会1、フォーラム申込者2

②役割分担:司会1、報告2、タイムキーパー(時間調整役)1、書記(レポート作成)1

書記は、討議の内容を簡潔に整理すると共に、自分の感想をまとめたレポートを作成し、終了後14日以内にフォーラム事務局に送付する(A4判40字×50行で2頁)。

③時間配分180分:司会者発題・自己紹介20、報告A70、休憩10、報告B70、まとめ10

一人当たり70分(報告40+話し合い30)

④グループ、役割などはフォーラム当日に発表

⑤報告者の課題

a.フォーラム報告書の掲載原稿

書式:A4判横書 40字×50行 2枚、10p(ポイント) MS明朝、余白 上下25mm、左右30mm

題目は11p MSゴシック太字、節題は10p MSゴシック太字、ファイル名「SLF15-3 名前20150831」

b.フォーラム当日の配布レジュメ(枚数自由)10部、内3部は受付に提出

c.提示する資料など

2 報告「授業研究会を企画運営する」の組み立て

① 基本要件

- ① 報告のテーマ、コンセプトとストーリーを明確にしてください。
- ② 学校づくりに関わる実践をリアルに語ることと、自己の役割・活動を明確にすることが大事です。また、実践の一般化、応用可能性について述べる場合は、概念や枠組みを当てはめるのではなく、実践的知見をまとめてください。
- ③ 事例やエピソードを盛り込む、資料を提示する（静止画、ipad 使用は可）など、メンバーにアピールするよう工夫してください。
- ④ 事前に語りを練習し、時間配分を調整しましょう。
- ⑤ 報告者は、レジュメの作成（原稿作成も可）、語りを通して、自らの実践を整理していきます。実践者として貴重な財産を得ることになります。
- ⑥ 当日は報告書掲載原稿・配布資料を基に自由に語ってください。話を膨らませたりカットしたりすることも OK です。メンバーとの話し合いを通して気づきや発見、新たな問いに出会えます。
- ⑦ 当日の報告では、パワーポイント等は使用できません（配布資料 ppt. は可）。また、提示する資料は、下記②の内容構成に従ったもので、精選してください。資料を読み上げる報告ではなく、資料を示しながらも学校の状況、取り組みや変容過程を「語る」ことに重点を置いてください。なお、参考資料は、話し合いの時間に配布してください。
- ⑧ 学校づくりに関わる実践を振り返り理論的に整理すれば何が言えるのか、また、その経験から学んだことや気づいたことも述べてください。

② 内容構成について

内容構成は、コンセプトとストーリーをふまえて自由に構成します。

* 全体を5つ程度に分節化し、題目、節題を工夫しましょう。

次の項目は入れてください。

- ・ プロフィール：教職経験年数、勤務校数、現任校での勤務年数、職位・役割
- ・ 学校の特性：生徒数・クラス数、教員数、教員の年齢構成、教員集団の特徴、地域特性

- ・ 学校づくりの特徴と過程（学校づくりの組織体制や組織的な動き）、成果と課題（教育活動の改善、教職員や児童生徒の変容など）

- ・ 校内授業研究に関わる実践の省察（学校づくりの過程で自分が果たした役割・行動、それらの意味や課題、その過程で何を学んだかなど）



ラウンドテーブルの配席図（一部）

3 当日の取り運び

① 場所、形態など

- ・ 場所：中央館 214・215 教室
- ・ 机といすの配置：円卓型
- ・ 当日の配布資料で、グループ名、役割を確認してください。

② 主な役割について

- ① **報告者**は、フォーラム報告書のレポートを基に、じっくり語ります。報告者は振り返り、物語り、話し合う過程でスクールリーダーに関わる実践を整理し、新たな課題が見えてきます。
- ② **参加者**は、報告者の語りを傾聴しその内容を深めたり広げたりするために、問いかけ、話題提供し、話し合いに参画します。この冊子の論稿を読んで、事前学習してください。
- ③ **司会者**は、ファシリテーターとして、メンバーの学び合いが深まるよう適切な方向付け、問題整理、助言を行います。司会者は R T の運営と今日のねらいを確認してください。その後、各自に自己紹介をしてもらいますが、司会者が出したお題に沿って（例「最近良かったできごと」）、2分以内で行います。
- ④ **タイムキーパー（時間調整役）**は、各報告について 20 分、40 分 / 70 分の時点で時間を確認し、報告者に知らせてください。グループで時間配分に沿って取り組めるよう、司会者、報告者は配慮してください。
- ⑤ 最後に、**書記（レポート作成者）**が今日の主題を整理し、自らの気づきや深まりを述べて、まとめとします。

（文責）大脇 康弘